

高架下のうさぎ

うさぎはオオカミに勝てない。

それは高架橋でも同じこと。

うさぎはオオカミに蹂躪される。

俯瞰。傍観。募っていくこの世への不信任。

容赦のない弱肉強食。

オオカミよ、うさぎの肉は美味いか。

ハイエナにもライオンにも見捨てられた、哀れな
うさぎの肉は美味いか。

昼下がりの高架下。そこは動物園ではない。飼育
員はいない。自由の身。

「もういいや」

諦観したうさぎは、高架橋からゆつくりと跳ねた。

無常観。厭世観。天空への帰還。一周回って俯瞰。

募らせる『その世』への不信任。

オオカミの手で、この世から二十グラムが消えた。

『高架下のうさぎ』コメント

法学部 法律科 1年 高橋翔也

詩は、読者が自由に解釈すべき読み物だと、私は思っています。ですので、コメントでは、私が込めた主題をあらさまに公表せず、主題のヒントだけの公表とさせていただきます。

本作は一応、ある社会問題を題材にして書いたつもりです。メディアでも盛んに取り上げられている問題なのですが、根絶はなかなか難しい問題です。未だ、それがなくなるような兆しはありません。

また、特に若年層を中心に発生する問題です。それは、この問題の発生原因が、未熟さゆえであるから、という理由からではないかと考えられます。互いのことを認め合い、思い合えば、決して起こり得ない問題なのです。

また、この問題が厄介なのは、当事者以外の人物が干渉したがないという点です。もし安易に

法学部
法律学科 1年
高橋 将也

干渉すれば、自分が巻き込まれる可能性があるため、当事者以外は干渉したがりません。しかし、この問題を解決するには、強力な第三者の存在が有効だったりするのです。